

国際航空宇宙展2018東京 (JA2018 TOKYO) の開催せまる

国際航空宇宙展2018東京 (JA2018 TOKYO) の開会がいよいよ来る11月28日にせまってきた。1966年に第1回目のJAが開催されてから丁度50年目だった前回のJA2016は、出展者数、出展面積とも過去最大を記録し、節目を飾るにふさわしい展示会となった。一方、その4年後の2020年は東京オリンピック・パラリンピック開催の影響で東京での開催が困難なことから次回JAを2021年に開くこととしたが、5年間隔が空くことによるJA認知度の低下、運営ノウハウの散逸、気運の低下等を緩和する目的で、2018年11月に、ビジネスに特化した比較的小規模な展示会を開催することとし、JA2018 TOKYOと名付け、準備を進めてきた。ここで、およそ半月後にせまってきた本展示会の最新状況について報告したい。

1. 我が国国際航空宇宙展の歴史

(一社)日本航空宇宙工業会が国際航空宇宙展に関わるようになったのは、1966年に朝日新聞社が中心となって開催された「第1回東京航空宇宙ショー」に「エアショー協議会」の一員として参加したのが最初である。当時、我が国航空工業界の再建が緒についたばかりであり、業界再建の促進及び国民的関心の高揚を図る目的であったとされる。

以来、本展示会は下記に示すように今回で第15回目、52年目を迎えるまでに至った。当初は航空自衛隊基地を活用させて頂く形で祭典が行われていたが、第8回目以降は主として東京近郊の展示場を会場としたビジネス中心の展示会へと変遷している。

世界のエアショーとしては、100年前後の歴史を持ち、評価の定着したパリ(仏)、フアンボロ(英)、ベルリン(独)などのほか、ドバイ(UAE)、シンガポール、珠海(中)、ソウル(韓)、モスクワ(露)、アバロン(豪)などがあり、いずれも2年毎に開かれている。

近年はシンガポール、中国及び韓国で開かれるエアショーの規模も相当大きくなってきているが、関係職員は「JAはアジアで最も古い歴史を持つ展示会」という自負を持って運営に当たっている。

回	開催年	開催場所	参加団体数
1	1966	航空自衛隊入間基地	42
2	1968	航空自衛隊入間基地	96
3	1971	航空自衛隊小牧基地	177
4	1973	航空自衛隊入間基地	119
5	1976	航空自衛隊入間基地	123
6	1979	航空自衛隊入間基地	122
7	1983	航空自衛隊岐阜基地	110
8	1991	幕張メッセ	259
9	1995	幕張メッセ	282
10	2000	東京ビッグサイト	297
11	2004	パシフィコ横浜	346
12	2008	パシフィコ横浜	529
13	2012	ポートメッセなごや及び中部国際空港	636
14	2016	東京ビッグサイト	812
15	2018	東京ビッグサイト	511以上

2. JA2018 TOKYO概要

(1) 開催準備状況

JA2018 TOKYOは11月28日(水)～30日(金)の間、東京ビッグサイト東新展示棟第7及び8ホールで開催される。今回は会場面積で言えば前回の4割規模で計画がスタートしたことを踏まえ、出展面積としては550コマ以上(1コマ=9m²、前回は1,291コマ)を目標としてきたところ、担当者の予想を上回る申し込みがあったため本年3月時点でオーバーとなり売り切れ、なるべく多くの企業・団体に参加いただく観点から現在、共有スペースを工夫するなどして約750コマまで提供できる状況となった。出展者数としても現在511社・団体(前回812社・団体)に達し、今後もう少し共同出展企業数が増加する見込みである。今回、希望を承ったにも関わらず出展を見送らざるを得ない会社・団体が多く出てしまう結果となり、ご迷惑をおかけしましたこと、この場を借りお詫び申し上げます。

今回も開催地である東京都の協賛を頂いているほか、経産省、防衛省、内閣府宇宙開発戦略推進事務局を始めとする各省庁やJAXA,NEDO,JETRO、その他米、英、独、仏、加、伊をはじめとする各国大使館からもご後援を頂いている。

(2) JA2018 TOKYOの特色

- ・ボーイング社、エアバス社、ロッキード・マーチン社、UTC社、ノースロップ・グラマン社、レイセオン社、BAEシステムズ社、レオナルド社、ベル社などの海外大手企業や各国駐日大使館がとりまとめる海外企業が数多く出展する日本唯一の展示会である。
- ・各地方自治体や省庁等の支援による全国の中小企業群(クラスター)が出展する。
- ・仏専門会社によるビジネス商談会(B to B)システムを引き続き採用。防衛装備

庁(ATLA)が前回に引き続き本格参加し、防衛関係中小企業の出展支援も行う計画。

3. イベント紹介

(1) ビジネスマッチング

会期中の2日間、世界的に実績がある「BCIエアロスペース社」が運営する国際的なビジネス商談会を実施する。本商談会は、JA2016のときは出展者の特典(無料)であったが、今回は出展できなかった企業も数多くあったこと及び出展料自体を前回よりも値下げしたことを合わせ考慮し、希望者はだれでも有料で参加できることとした。

・日程:2018年11月29日(木)及び30日(金)

・参加方法:JA2018 TOKYO公式Webサイトから「BCIエアロスペース社」の商談会専用ページにログインし、参加できる。商談会実施場所は、出展者の各ブースまたは会場内に設置する商談会特設スペースである。費用は、出展者が一社当たり400ユーロ、来場者が1,500ユーロである。また、参加バイヤーとしては、SJACの会員企業を始め、国内外の優良企業等が参加する予定。

(2) セミナー

11月28日(水)、開会式、招待者プレビューアワー、オープングレセプションに引き続き、午後より基調講演及び特別講演を実施する。基調講演としては、経済産業省、防衛装備庁及び内閣府宇宙開発戦略推進事務局幹部による講演を、そして特別講演としては米航空宇宙工業会AIA幹部による講演を企画している。

さらに、航空、防衛、宇宙分野における最先端技術等に関する興味深いセミナーを29日(木)及び30日(金)にわたり開催する。このほか併催イベントとしてSAE(Society of

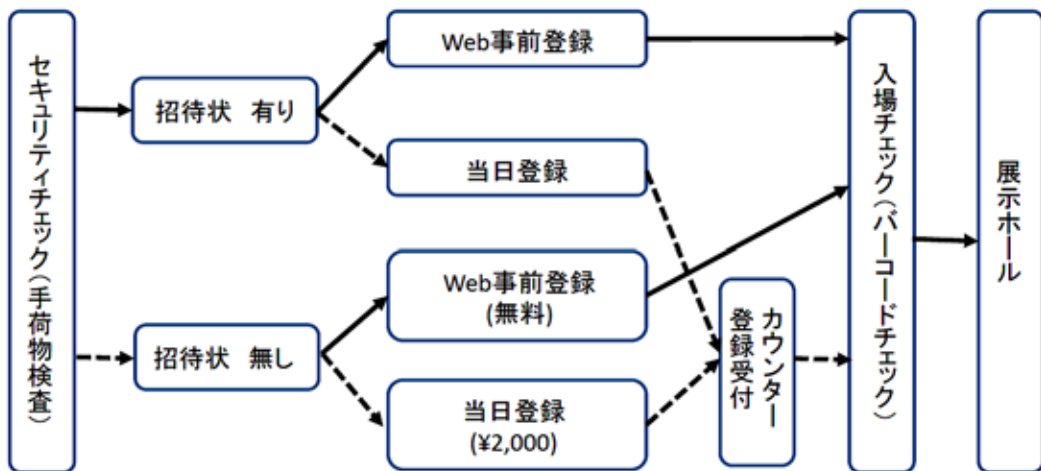
Automotive Engineers) による最新技術セミナー、経産省による「空飛ぶクルマ」セミナーなどが企画されている。また同時に、アジア航空機サプライチェーンフォーラム、ガスタービン学会企画などの併催イベントもある。

4. 入場方法など

なるべく多くの方々にご来場いただく観点から、関係する方面に多くの招待状をお送りすることにしているが、招待状の有無にかかわらず公式Webサイト (<http://www.japanaspace.jp/>) で事前登録を行えば、来場者は登録受付カウンターに並ばずスムーズに入場できる。事前登録をされず、招待状も

お持ちでない方は、入場料として2,000円(税込み)が必要となるので、ぜひ事前登録を行い、ふるってご参加いただければと思っている。

事前登録完了後、ご登録いただいたメールアドレスに入場者証が送信されるので、入場者証をカラーでプリント後、ご持参いただきたい。また、入場者証の送信とともに、「JA2018 TOKYO来場者マイページ」のご案内がある。マイページから登録情報の確認、変更、セミナーの事前聴講申し込みが可能なので、ぜひご活用いただきたい。もちろん、セミナーは空席があれば当日でも聴講可能である。



2016年国際航空宇宙展の様様

さらに、各出展社・団体におかれては、専用のハンディターミナル（有料レンタル）で、来場者の入場証バーコード情報を読み取り、後日リストとして来場者情報を入手できるサービスも利用できるのです。ご活用いただければと思う。

今回、JA2018 TOKYOは、航空宇宙部門世

界売上高ランキング100位内の企業27社（前回29社）が出展する国際的な展示会として開催される。屋外ではF-35実物大模型の展示も計画中である。是非ご来場いただければ、と日本航空宇宙工業会及び東京ビッグサイトの関係者一同が全力でラストスパートに臨んでいるところである。

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 常務理事 山北 和之〕